平成最後の年の暮れに

津島市立神守中学校長　小林秋良

１１月中旬の日曜日に家内とスーパーへ買い物に出かけました。何気なく売り場を眺めていると、鏡餅・田作り・昆布…。（もう、正月用の食材が並んでいる。）とびっくりしました。びっくりしたのは私だけかもしれませんが、私にとっては“もう”だったのです。私の感覚で言うと、この光景が１２月に入った頃であれば、そのように感じることはなかったでしょう。

このような“先取り”“先手必勝”は、商業関係やスポーツの世界では良い結果を導く場合がよくあるように思います。では、教育の現場での“先行実施”はどうでしょう。早く取り組んだからよい、遅く取り組んだからだめ。と言うことは一概には言えないと考えます。ただ単に、機先を制すればよいわけではありません。ここに教育の難しさがあると思います。「目標や目指す生徒像を定め、綿密な計画のもとに〇〇活動を実践する。」この流れを一度行うと活動が完了する・成果が上がるのであればいいのですが、活動には必ず習熟のための繰り返しが伴いますし、対象の生徒が変わると計画を練り直さなければいけません。計画→実践→評価→再実践の切れ間のない繰り返しを成果が出るまで続けなければいけません。この流れの最初に先行実施の猶予期間があれば、少しは余裕が生じる時はありますが、全ての計画がやり直しとなれば…。“教育は難しい。しかし、やりがいがある。”と改めて思う今日この頃です。

そんな思いを抱きながら、ふと振り返ってみると、平成と言う元号ももうすぐ終わりです。「へぇー。平成生まれの子が入学するよ。」とめずらしがったことも遠い昔となりました。今年の暮れは平成を使う最後の年となってしまいました。そんな年の瀬、世相を表す漢字一字は皆さんもご存知のように「災」でした。西日本豪雨、北海道地震、大型台風の上陸、記録的な猛暑。まさに災害の１年でした。この「今年の漢字」も平成に入ってから始まったものです。これまでの今年の漢字を振り返ってみると、「楽」とか「幸」のような字は選ばれていません。来るべき新しい元号の年には、「楽」「幸」「福」「喜」「嬉」「笑」が選ばれる明るい年になってほしいと願うばかりです。

最後になりましたが、保護者の皆様をはじめ、地域の皆様には、ひとかたならないご支援を賜りました。誠にありがとうございました。職員一同、お礼申し上げます。